

## 平成25年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実施地区：十勝地区
- 2 研修者氏名（学校名）：和賀 和人（新得町立屈足南小学校）
- 3 研修実施日：平成25年10月17日（木）～19日（土）
- 4 研修先：東京都東村山市立野火止小学校
- 5 研修目的：基礎・基本の習得と活用を目指した授業改善
- 6 キーワード：学力向上、校内研修の活性化、授業改善



### 1 はじめに

10月18日、東村山市の研究奨励校である野火止小学校公開研究会に参加させていただきました。“野火止”の由来は、昔この地域（武蔵野）で焼畑耕法が盛んに行われ、関東ローム層の乾燥した土壌が草木の燃え広がりを早めたことから、野火を止める用水が数多く造られたことによるものだそうです。この辺りは埼玉県南部に位置することから東京のベッドタウンとして栄え、当校がある東村山市は人口約16万人の商業都市となっています。学校の児童数は661名、今では新旧入り交じった商店街の中に多くの住宅が建ち並び、落ち着いた中での教育活動が進められています。この度の算数科の公開研究会は、研究奨励校2年目のまとめとして開催され500名を超える参加者がありました。またこの研究は、教育調査研究所の小島宏研究部長をはじめ3名の著名な講師が当初から校内研修に関わり培われてきた成果を公開したものであり、授業公開後の講師陣による“鼎談”（3人が向かい合って話すこと）は、非常に中身の濃いものでした。



### 2 野火止小の研究の概要

当校では、これまでの子どもの現状を踏まえ、「自ら課題をとらえ、考え、解決する児童の育成—基礎・基本の習得と活用を目指して」を研究主題とし、算数科を通して児童の確かな学力の定着・向上を図るとともに、児童に課題解決することの楽しさや学ぶ喜びを味わわせるための研究を進めていました。また、上記に関わる重点として、①学びの連続性と単元の構想化、②課題や児童の思考の分析、③学習形態の工夫、

④学習習慣の確立などを掲げ、それぞれにこだわりをもった実践を進めていました。

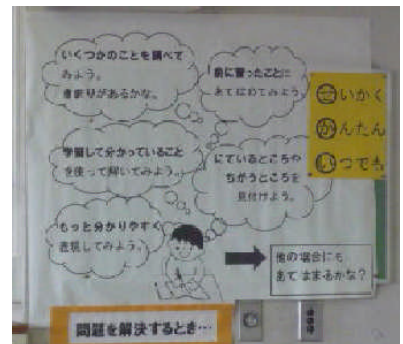
#### （1）学びの連続性と単元の構想化

当校では、学びの連続性を重視した単元構想図を作成していました。単元構造図では、教科の系統性を表すだけでなく、単元を支える既習事項・既習経験と児童の実態を踏まえた上で、本単元の学習・身に付けさせたい力を明らかにするものです。さらに、単元の学習と他教科や日常生活とのつながり、身に付けた力を使って次の単元の学習や生活で問題解決できる児童に育てたいという“学びの連続性”の全体像が一目で分かるようにまとめられています。

#### （2）課題の分析・児童の思考の分析

「課題」については、「問題を的確にとらえて、どうすべきかということをはっきりさせたもの」とし、問題に直面したとき、それを児童自らが解決したいと意識化し、明らかにすべき事柄と整理して

いました。また児童の思考分析については、どの教室にも黒板上部に右の写真のような「考えるときの



ヒント」を掲示し、児童が課題に沿って筋道を立てて思考を進めながら自力解決ができるように工夫していました。【類似、関係付け、演繹、簡潔・明瞭、帰納】

#### （3）学習形態の工夫

よりよく問題を解決するための手立てとしての1時間の学習形態は、①つかむ→②見通す・探る→③練り上げる(1)→④練り上げる(2)→⑤まとめる、を基本としていました。とりわけ、③の練り上げ(1)では、ペアやグループでの学

び合いを取り入れ、自分の考えをはっきりさせたり、友達のよさを見つけ認め合うことを目的に行われていました。また、練り上げ(2)は全体での学び合いであり、小島先生の指導による「受けて返す力」(算数の説明の仕方・質問の仕方)に基づき児童の話し合いが深められていました。そして、そのための教師の役割では、



長田先生の指導による「正確さからの確さへ」と流れを考えて検討の方向を決める方法を取り入れた展開をしていました。

#### (4) 学習習慣の確立

既習事項や既有経験を活用して問題解決を図るためには、既習の基礎的・基本的な知識・技能や考えが定着していることが重要であることから、当校ではそのための家庭学習や学校での反復学習、個別指導等に力を入れていました。具体的な取組は、以下のとおりです。

- ①朝学習＝週1回。内容は東村山市版算数基礎ドリル(当校長が委員長として作成)、市販ドリル、教科書を使用。つまずきを探る。
- ②家庭学習＝その日の学習内容の適用問題プリント、ドリル、教科書練習問題を活用。つまずきを確認し指導する。
- ③個別指導＝休み時間や放課後の補習や学習相談で。内容は、知識・技能を中心としたもの。つまずき部分を中心に練習問題を解く。

### 3 公開研での授業参観

私は、上記をもとにした公開授業から3年と5年の2つの授業を参観させていただきました。ありがたかったのは、全学級が算数の授業公開であり、各学年毎に少しずつ学習内容をずらして公開してくれたことです。各単元の一番見たい箇所を選ぶことができ、「学びの連続性」を実感することができました。また、授業では、板書とノート指導が素晴らしく、児童が内容を整理しながら思考していました。自力解決までの時間を短くすることも統一していました。

### 4 鼎談

授業公開後の鼎談は、当日の授業を振り返りながら「これからの算数教育を語る」ものでし

た。講師陣3名の氏名と概要は次の通りです。

- ・小島 宏 氏(教育調査研究所部長・司会)
- ・長田 耕一 氏(東京都算数教育研究会元副会長)
- ・吉川 成夫 氏(共栄大学教授、前文部科学省初等中等局視学官・教科調査官)

#### ○概要 (敬称略)

(吉川)“課題”とは、自分がやってみたいと思うものであり、“問題”は、難しいけれど実現したいと思うもの。どちらも子どもが目的意識をもち進んで取り組むこと。

(長田)①課題提示では子どもが考える必要性があると感じることが重要。②問題解決させる時に自分の考え方をもち表現させること。

(小島)①学習過程がはっきりしていることが大切。何をするか明確であること。②自力解決では考えたこと、気付いたことをノートに記録し、自分の考えを振り返って修正する、みんなで学び合い、よりよいものにすることが重要。③解決では完璧を求めず、「行けるところまで行く」。今の子どものできる力で、教師が交通整理しながらまとめること。

(吉川)小学校の校内研修は、同じ目的、共通理解のもとに取り組むことが大切。授業を進めるモデルをつくり、学年毎にアレンジすること。

(長田)学習とは既習事項や一人一人の生活体験から考えていくもので整理しながら考えること。評価が継続的になされているかも重要。



(小島)①知的コミュニケーションを大事にすること。「受けて返す力」を高めたい。②評価と支援を適切にすること。③考えさせながら学ぶ授業を構築したい。

### 5 終わりに

今回の研修は、算数科での授業改善を図る上で大変有意義なものでした。校長として校内研修をどう活性化させるか、授業改善に向けて適切な助言ができるかが重要であり、貴重な学びの場となりました。道小の本事業に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

